



介護現場革新会議パイロット事業 (熊本県版) 【結果概要】

令和2年（2020年）1月28日
熊本県



本県を取りまく諸問題

- 高齢化率は、30.6%と全国よりも高く、超高齢社会への対応は喫緊の課題。
- 平成28年に発生した熊本地震の復興需要の影響もあり、全産業で人材確保が非常に厳しい状況。
- 介護現場では、人材不足を理由として、サービスの提供縮小、基盤整備の先送り、介護職員の負担感の増大など多くの課題を抱えている。

以上のことに加え、今後の人口減少を見据えた場合、地域で必要な介護サービスを確保するための介護人材の確保・育成は急務であると考えている。

解決に向けて

取組の方向性

- ①介護現場（介護職自身）からの魅力発信
- ②人材不足の状況でも介護の質の維持・向上を可能とする介護現場のマネジメント
- ③働きやすい職場づくり、介護の質の向上につながる事業所運営の促進
- ④介護分野への若者の新規参入を促す取組の深化

※関係団体と連携してパイロット事業に取り組むことで、これまで以上に強固なネットワークを構築し、**今回の介護人材確保対策が自律的・継続的に取り組まれることを目指す。**

→ 本県の特徴を活かしながら、次ページのとおり具体的な取組を実施。

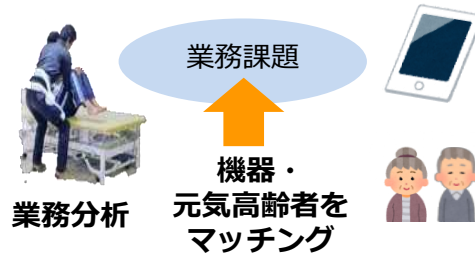
具体的な取組 －概要－

介護職が語る言葉からの 介護の魅力発信

- **介護職員**の
姿・言葉を描くことで
KAIGOの価値・魅力を発信する。

- クリエイティブディレクターと連携した「**介護のブランディング**」。
- 県内50名の現役の介護職員の言葉・写真を集めて介護の魅力を発信するプロジェクトを実施。
- 11月10日の「介護の日」イベントで一斉に公開。

介護ロボット・ICT・元気高齢者 活用モデルの構築



- モデル施設（2施設）を選定し、業務分析を踏まえ、業務や課題を見える化。
- 介護ロボット・ICT・介護アシスタントの効果の高い**活用モデルを構築**。
- 好事例の共有・横展開。

福祉系高校等と連携した 学校現場への働きかけ

- 県内の2地域（2つの福祉系高校）を選定し、地域の福祉系高校の先生、福祉団体（事業所等）、中学校の先生などが協力しながら、地域ぐるみで「**介護**」への関心を高めるための**モデル的な取組**を実施。



- 座学での学習のほか、VR認知症体験、最新の福祉機器体験、職場体験などの**体験型の授業**を試行。



認知症の啓発を通じた 介護への理解促進

- 11月10日の「介護の日」イベントと連携し、**体験型の啓発**を実施。
 - ・ VR認知症体験 など
- 小学生や中高生に対する啓発活動



生涯現役促進地域連携事業 との連携

- 高齢者就労を進める生涯現役促進地域連携事業の重点分野として「**介護助手（アシスタント）確保**」を設定。
- 協議会構成団体と連携し、入門的研修受講者と事業所との**マッチングを推進**。



退職自衛官に対する福祉分野への 再就職の働きかけ

- 退職前の自衛官を対象に**出前講座**（計11回）を実施。
- 自衛官が有するマネジメント力等への期待を伝え、**スキルを活かせる再就職先**としてアピール。

【背景・課題等】

○「介護の魅力発信」については、これまでもパンフレットの作成・配布等に取り組んできたが、介護のイメージを変えることは難しかった。

○昨年度開催した「介護の日」イベントにおいて、講演したマンジョット氏（※）は、日本の介護の素晴らしさを語り、若者を含めた多くの参加者が共感した。

（※）マンジョット氏は、日本の介護の素晴らしさに気づき、その価値を発信していきたいとの強い思いを持ち、県内の常設型認知症カフェのプロデュースも手掛けた人物。

○また、講演では、介護職員自身が、「介護の価値」や「世の中の期待」に気づいていないことも指摘された。

○そのため、今年度は、本県と介護への思いを共有するマンジョット氏と協力し、介護の現場で輝いている介護職員自身からの魅力発信に取り組む。

○将来的には、日本の介護（KAIGO）が、国内はもとより、世界をリードする高い価値あるサービスとして評価されることを目指す。

具体的な取組イメージ

○クリエイティブの力で、介護職の人たちから介護の魅力を引き出すプロジェクト

- **介護職員の**
姿・言葉を描くことで
KAIGOの価値・魅力を発信する。



クリエイティブディレクター
マンジョット・ベディ氏

【実施概要】

1 プロジェクト始動（7月9日（火））

マンジョット・ベディ氏と熊本県介護福祉士会石本会長ほか関係者が、熊本県の蒲島知事を表敬訪問し、プロジェクトの始動を報告。



2 県内の現役介護職員50名の撮影

	分類	撮影	人数
7月27日（土）	写真	常設型認知症カフェ「as a cafe」	16名
8月25日（日）	写真	あさぎりホーム	10名
9月8日（日）	写真	天草中央総合病院附属介護老人保健施設	10名
10月6日（日） ～7日（月）	写真	常設型認知症カフェ「as a cafe」	14名
10月27日（月）	ムービー	常設型認知症カフェ「as a cafe」	5名



3 写真パネル展示会・ムービー作品上映会の実施

介護の日関連イベントでは、トークショーなどのイベント（約400人）と合わせて延べ約2,000人が来場。

	分類	場所	人数
8月28日（水）	写真展示	下通商店街	—
9月25日（水） ～30日（月）	写真展示	阿蘇くまもと空港「ふれあい広場」	—
10月12日（日）	写真展示	熊本市国際交流会館	—
11月8日（金）	写真等展示内覧会	熊本県医師会館	約60人
11月9日（土）	写真展示	同上	118人
11月10日（日）	写真展示	同上 及び 熊本城観光施設「城彩苑」	279人
【介護の日inくまもと】	ムービー上映	熊本城観光施設「城彩苑」	1,045人



など

介護職が語る言葉からの介護の魅力発信 -KAiGO PRiDEプロジェクト-

熊本県内の介護職員50名分について、本人の言葉を紡いだ写真パネル及び動画を作成

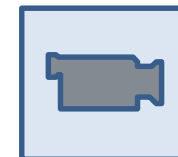


(写真パネルに添えられた言葉から)

- その人の人生の一部になっている、これが介護の仕事の素晴らしさ。
- 「今日も来たねー」「あなたが来るのを楽しみにしてた」自分が必要とされていることの嬉しさで毎日が充実！
- その人がその人らしく過ごせるように、その人らしく一生を終えられるように、そのために全力を尽くす。

⇒介護職員の姿・言葉をアート作品に昇華し、介護への関心が薄い層にもアプローチ！

⇒地域の介護職員が、介護職としての誇りを再認識し、魅力発信の起点に！



ステートメントムービーの紹介

福祉系高校等と連携した学校現場への働きかけ

【背景・課題等】

- 本県では、特に地方部で介護人材不足が深刻な問題となっている。
- また、これまで、地方部の介護現場に人材を輩出してきた福祉系高校の定員充足率が低迷し、将来的に不安を抱えている。
- このような中、新中学校学習指導要領（2021年度から全面実施）では、「地域と連携し、よりよい学校教育を目指す」こととされ、また、「技術・家庭科」には「介護など高齢者との関わり方」などの学習内容が追加された。
- この機を捉え、本県では、これまで福祉系高校と良好な関係を構築してきた強みを活かし、小学生や中学生に向け、介護の大切さを伝える働きかけに、地域ぐるみでチャレンジする。

具体的な取組イメージ

- 地域の福祉系高校の先生、福祉団体（事業所等）及び中学校の先生などが連携し、中学生が「介護」や「高齢者との関わり方」などに関心を持てるような取組を、地域ぐるみで実施。
- 例えば、生徒が思い出に残るような介護の体験・調査学習などを通して、地域の役に立つ喜びや優しさを育み、介護職への関心や地元での就労意欲を高めることを目指す。



福祉系高校等と連携した学校現場への働きかけ

【実施概要】

学校現場×地域の介護資源の連携を進めるシンポジウム（8月1日（木）） 118名参加

- 「福祉系高校への期待と学校現場における介護の魅力発信」 文部科学省初等中等教育局 矢幅清司視学官
- 「小学生の高齢者施設訪問学習の取組」 熊本市立川上小学校 青木透校長
- 「パネルディスカッション」 上記講師のほか、県老施協 跡部会長、城北高校 竹原校長

鹿本地域（①菊鹿中学校・②鹿本中学校）

城北高校が中心となり、プログラム検討

第1回 福祉・介護体験（①9月6日（金）/②9月20日（金））

- 福祉・介護の理解（高校生によるプレゼン）
- 認知症に関する説明（同上）
- VR認知症体験・介護ロボット体験 等

第2回 体験者発表（①10月9日（水）/②10月15日（火））

- 福祉の仕事説明
- 城北高校卒業生等との対談
- 認知症に関するグループディスカッション 等

第3回 施設体験学習（①10月18日（金）/②11月11日（月））

- @地域の特養、老健など（矢筈荘・一本松荘・太陽・愛隣の家）
- 利用者とのコミュニケーション・介護食体験・運動会等

阿蘇地域（阿蘇中学校）

阿蘇中央高校、阿蘇市社協、及び地域の介護施設が連携し、プログラム検討

第1回 福祉体験学習（9月12日（木））

- 福祉の説明
- 加齢・認知症等の説明（高校生によるプレゼン）
- 阿蘇中央高校卒業生からの発表
- VR認知症体験
- 高齢者疑似体験
- 介護食体験
- 福祉用具/介護ロボット体験 等

第2回 施設体験学習（12月24日（火））

- @地域の特養（ひのおか順心館）
- 介護体験（レクレーション、食事介助等）

介護の日イベント（11月10日） ステージイベント 約400名参加

- 阿蘇中央高校及び阿蘇中学校の学生による取組内容の発表

事業報告会（2月21日予定） 50名程度

- シンポジウムで講演いただいた矢幅視学官を阿蘇中央高校にお招きし、事業報告会を実施

福祉系高校等と連携した学校現場への働きかけ

【実施概要】



＜城北高校生によるプレゼン＞



＜食事介助体験＞



＜生活介助体験＞



＜介護リフト体験＞

地域の介護施設も中学生の体験学習をサポート



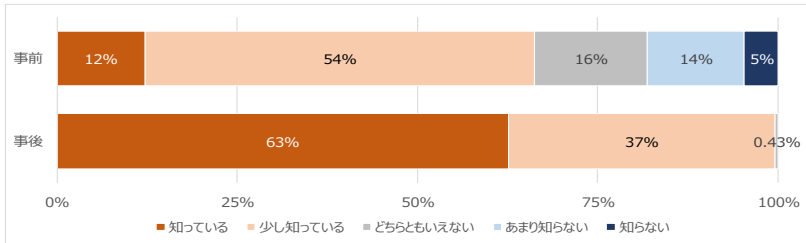
＜阿蘇中央高校×阿蘇中学校発表 @介護の日イベント＞

福祉系高校等と連携した学校現場への働きかけ

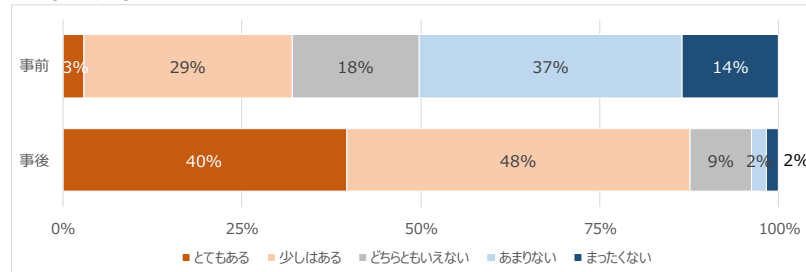
【実施結果（アンケート結果）】

福祉体験学習に参加した、阿蘇中学校・菊鹿中学校・鹿本中学校3校の生徒（121名分）の回答

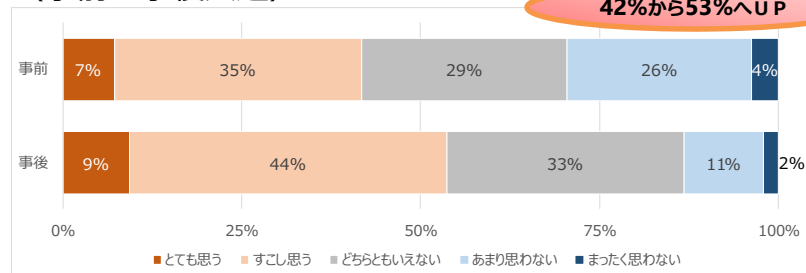
Q 1. 福祉や介護の仕事は、どのようなことをするのか
 (事前) 知っていますか？
 (事後) 知ることができましたか？



Q 2. 自分が、介護を必要とする当事者になった時のことを、
 (事前) 考えたことはありますか？
 (事後) 考えましたか？



Q 3. 福祉や介護の仕事を、やってみたいと思いますか？
 (事前・事後共通)



42%から53%へUP

<主な自由記述>

- きつい事と思っていたけど、体験を通してきついこともあるけど、笑顔になっていただくことができたので、やってみたいと思いました。
- 福祉や介護について少しずつ知識をつけていく中で、人を支える仕事につきたいという思いが強くなりました。体験などをして、コミュニケーションをとっていると幸せな気持ちになったからです。
- 私は将来福祉の仕事をしたいから今日の体験でより強く思うようになった。
- お母さんが介護でごはんをつくる人だったから次は自分が人を支えたいです。
- 人と向き合う仕事だから大変だと思うけど、それ以上にやりがいがあると思う。
- 福祉や介護はみんなが幸せになれると思う。
- 自分も手伝いをしてみて、大変だと思っていたのが今日変わったし、おじいちゃん・おばあちゃんたちの笑顔を見て、やりがいを感じる良い仕事だと思った。
- 自分の能力が生かせる仕事だと思ったし、誰かの役に立てる仕事だと思った。

⇒体験学習を通して福祉・介護職への興味が生まれ、
 将来の選択肢の1つになりうる可能性！

認知症の啓発を通じた介護への理解促進

【背景・課題等】

- 超高齢社会が進展する中で、認知症になっても身近な地域で安心して暮らせる社会づくりが必要である。
- 本県は、知事自ら認知症サポーターになるなど、サポーター養成数が「人口比で10年連続日本一」を達成しているが、県民アンケートの結果、「住み慣れた地域で安心して生活できる社会の実現のために足りないもの」は、「認知症施策」との回答が最も多かった。
- このため、昨年度からは、認知症カフェの運営等の積極的な活動を行う県内14の団体を「認知症サポーターアクティブチーム（以下、「アクティブチーム」という。）」として認定するなど、県民が認知症に触れる機会を増やし、理解促進を図ってきた。
- 今年度は、更なる広報・啓発等を通して、認知症に対する理解を深め、その方々を支える存在（介護職や地域住民）の意義を認識してもらう。

具体的な取組イメージ

- 「アクティブチーム」などと連携を図り、更なる理解を深めるための体験型の啓発などに取り組んでいく。
- 例えば、「VR認知症体験」の実施や、介護従事者による小学生、中高生への認知症ワンポイントアドバイス等の啓発活動など。



認知症の啓発を通じた介護への理解促進

実施内容

9/30
実施

■プレ体験会

行政を中心とした関係者が体験することで認知症施策の効果的な推進と今後の新たな取組に反映できるよう実施。

場 所：as a cafe（常設型認知症カフェ）

参加者：県関係者、市町村職員、as a cafe関係者等



VR認知症体験会内容 (合計90分)

認知症の人に対する体験者が持っているイメージを想起。(約10分)

視空間失認のVR体験、見当識障害のVR体験、レビー小体型認知症のVR体験(計約50分)

体験者同士でディスカッション(約20分)

11/10
実施

介護の日イベント

■「介護の日」のイベントの一環として実施

場 所：熊本県医師会館

時 間：第1回(13時00分～14時30分) 第2回(15時30分～17時00分)

参加者：※県民を対象に実施。

※ラジオCMやフリーペーパー等で告知を行い募集。



生涯現役促進地域連携事業との連携

【実施概要】

- 「生涯現役プラザくまもと」との連携強化を図るため、そのマッチングを担う高齢者無料職業紹介所に介護助手（アシスタント）専門職員を1名増員配置（熊本県さわやか長寿財団に委託）。
- 当該職員が中心となり、下記を実施。
 - ・ 元気高齢者への本事業周知（今年度、県が別事業で行う入門的研修受講者に対する周知）
 - ・ 介護事業所への本事業周知（チラシ等を作成し、事業所を個別訪問）
 - ・ 入門的研修受講者と介護事業所のマッチング
 - ・ マッチングに関する情報収集（マッチングの効果や課題を検証）

【実施結果】

- 入門的研修における元気高齢者への周知件数・就職希望者数は下図のとおり。
- 事業所等へは、69施設に個別訪問し、求人を申し込んだ施設が31か所、延べ65件の求人を確保。

入門的研修での説明状況と就職希望状況

項番	地域	実施日時	参加者数	就職希望者数
1	天草	8月26日	6	2
2	人吉	8月30日	9	4
3	熊本	9月11日	11	2
4	阿蘇	9月25日	12	1
5	菊池	10月8日	7	3
6	上益城	10月21日	1	1
7	山鹿・鹿本	10月31日	8	2
8	宇城	11月13日	7	4
9	芦北	11月13日	5	3
10	玉名	11月25日	6	3
11	八代	12月17日	19	14
	合計		91	39



入門的研修での周知の様子

生涯現役促進地域連携事業との連携

【実施結果（ヒアリング調査結果）】

介護アシスタントを今年度採用した、特別養護老人ホーム悠優かしま（嘉島町）と特別養護老人ホームシルバーピアさくら樹（熊本市）にヒアリング調査を実施。

＜元気高齢者へのヒアリング調査結果＞ ※2名から聞き取り

●働いている具体的内容

- ・週5回4時間、シーツ交換と居室の掃除（6部屋前後）
- ・週2回3時間、利用者の食器洗い、洗濯物しまい、居室の掃除等

●働き始めてよかったこと

- ・初めて施設に入ったが、利用者によくしてもらっている
- ・利用者や若い職員と話すと活気が出る
- ・退職後のブランクが長かったので、できる仕事が見つかりうれしい
- ・仕事と家庭の両立ができています



＜施設へのヒアリング調査結果＞

●施設における課題

- ・人材不足があり、元気高齢者の募集をするも、なかなか元気高齢者にアプローチすることが難しい（新聞折込チラシの場合、費用がかさむ）。

●元気高齢者受入までに実施すること

- ・業務内容の検討（長く勤務できるように軽作業を中心にする、勤務時間を柔軟にする、見守りや直接介護の禁止等）
- ・業務を任せられるためマンツーマンで指導する体制を構築

●元気高齢者が働き始めてよかったこと

- ・これまでシーツ交換や掃除が後回しになり、掃除が行き届かないことがあったが、安心して介護に専念できるようになった
- ・念入りに掃除をしてもらえるので、掃除に対する苦情がなくなった

